

# きのこ

## 1 キノコバエ、その他の虫類の対策

キノコバエ対策の基本は、①侵入を防止する、②捕殺する、③繁殖場所をなくすことです。他の虫類についても同様の対策により、異物混入のリスクを低減させることができます。栽培きのこで問題となっている主なキノコバエは2種類です。クロバネキノコバエ科のハエは、春から秋にかけて継続的に確認されますが、特別に大きなピークは見られません。これに対してキノコバエ科のハエは、春と秋に確認され、降雨のあった日と翌日に捕殺数が極端に多くなる傾向があります。

### (1) 問題となる主なキノコバエの特徴

#### クロバネキノコバエ科(図)

- ・成虫は体長2～5mmで、全体が黒色で羽も黒く半透明。
- ・屋外では年中みられ、廃培地や植物残渣など様々な場所に生息している。
- ・成虫は光や臭いに誘引される。
- ・培養ビン内に侵入して産卵し、幼虫は培養物を食害してビン内で成長する(幼虫の体長は5mm程度)。
- ・産卵～羽化までの期間は20～40日。
- ・害菌や線虫、ダニなどを伝搬する。



#### キノコバエ科(右図)

- ・成虫は体長4～7mm。胴は褐色、羽に黒褐色の斑紋、脚に複数のトゲがある。
- ・屋外では春・秋に発生し、朝夕や降雨の後に活発に活動する。
- ・成虫はきのこの臭いに強く誘引される。
- ・菌かき後に産卵し、幼虫は子実体を食害する。
- ・子実体、壁や棚などで蛹化し、数日で羽化する。



### (2) 虫類の被害防止(異物混入防止)対策

- ①侵入させない➤ 吸排気口や排水口へ侵入防止ネットの設置、窓やドアのすき間をなくす(日中に室内から外の光が見える箇所はそのすき間を埋める)、ドアの開放時間を短くする(朝夕は特に注意)、扉や通路にカーテンを設置する。
- ②捕殺する(モニタリング) ➤ 捕虫器や粘着シートを設置(定期的な交換、捕獲数の確認を)
- ③屋外の繁殖場所(発生場所)を減らす➤ きのこくずや廃培地、被害を受けたビン、排水管等の残さ等を放置せず、蓋つき容器に保管し早期に処分する。繁殖場所や隠れ場所を作らないよう施設の内外を整理整頓、清掃を徹底する。
- ④出荷品の包装前後のチェックは入念に行う。